

会 議 録

会 議 名	第5回 (仮称) 八王子市交通マスタープラン検討委員会	
日 時	平成26年11月14日(木) 14:00~15:50	
場 所	八王子市八王子労政会館 第1会議室	
出席者氏名	委員	鹿島茂委員長、駒沢広行委員長代理、中島静雄、長谷川久、鈴木律子、宮瀬睦夫、河村英知、松浦いつみ、三澤正俊、飯田輝彦(本間美紀夫)、西山徹、肥塚知成(永山健一)、高山恒明、寺尾一彦(五十嵐幸司)、立石努(佐々木千春)、三木健明(井上誠)、木内基容子、伊藤紀彦、高橋政雄、西山忠 ※()は代理出席者
	説明者	大木昇主査
	事務局	坂倉進交通企画課長、島田涼子主任、畠山陽平主事 株式会社日本能率協会総合研究所2名
欠 席 者 氏 名	内田瞭	
議 題	(1) 資料説明 ・ (仮称) 八王子市交通マスタープラン全体構成 第3章、第5章 ・ これまでの施策と、新たな施策の比較(案) ・ これまでの意見の反映 (2) その他 ・ 今後の検討スケジュール(案)	
公開・非公開・別	公開	
非 公 開 理 由	—	
傍 聴 人 の 数	1人	
配 布 資 料 名	・ 次第 ・ 名簿 ・ 資料1：(仮称) 八王子市交通マスタープランの構成(案) 第3章、第5章 ・ 資料2：これまでの施策と、新たな施策の比較 ・ 資料3：これまでの意見の反映 ・ 資料4：(仮称) 八王子市交通マスタープラン 素案(未定稿) ・ 資料5：今後の検討スケジュール(案) ・ 参考資料：第5回(仮称) 八王子市交通マスタープランにおける御意見	

1 目指すべき方向性について

【委員】資料4のP49都市交通の将来像の「道路交通」は、公共交通、歩行交通等、他の全ての交通分野を含むため、「自動車交通」が正しいのではないか。

【事務局】「道路交通」では、自動車に加え、災害対策等様々な視点が含まれており、自動車に絞りが切ることができないためこの表現となっている。表記の方法などにより工夫できないか検討する。

2 具体的な施策について

【委員】資料4のP86～87の「災害に強いまちづくり」は、前回から変わったところと認識しているが、庁内検討の結果加わったのか。

【事務局】これまでの本計画は道路整備が中心だったが、東日本大震災等も経験し、災害対策に交通面からどのように支えていくかを考える必要性が生じた。また、現在地域防災計画も策定しており、これらの内容等も含めて新たに記載することとした。

【委員】資料4のP88の「みなし道路」は、現在の書き方では進まないのではないか。また、自宅をセットバックして家を建てたあとに、また塀で覆ってしまうなどの状況が起きているのが実情である。杉並区では私権を抑える方向での検討が進められているとも聞いている。八王子は中核市になることもあり、より強く打ち出していったらどうか。同じことが市街地の開発にも言える。セットバックしても引いた分は、市民になにもメリットがない。

【委員】市民にもメリットがあるように制度化して欲しい。

【事務局】八王子市では、みなし道路の条例を制定している。これをもっと前面に打ち出していったらどうか、ということと認識した。

【委員】小学校の通学路における安全性を高める目的で、カーブミラーだけでなく、防犯カメラの設置を要請しており、平成26年に5箇所、平成27、28年にそれぞれ30個を設置していただくことになっている。マスタープランの中にも反映できないか。

【委員】(補足説明)学校教育の施策として進めているもの。通常5年で設置するものであるが、八王子市では3年に縮めて設置する。常時モニタリングは行えないため、事故等の発生時に補完的に活用するものである。

【委員長】防犯カメラを設置するのであればモニタリングが重要である。イギリスでは道路上に空のカメラを設置し、そのうちに本物のカメラも設置。本物のカメラ位置を定期的に変えることで、抑止力としている。このような工夫も考えられるのではないか。

【委員】第4章の文章の書き方が曖昧である。「要望する」「要請する」「進める」といった言い方が混在しており、誰がその施策を進めるのかわかりにくい。

【事務局】表記については精査を行う。

【委員】資料４の P63 施策 No.4、7 について、八王子南バイパスが中期となっており、日野バイパスが長期となっていると、日野市が良く思わないのではないかと。

【事務局】期間については調整を行う。

【委員】資料４の P65 施策 No.13、14 について、実施主体は国になるのではないかと。

【委員】【補足説明】施策 No.13 は中日本高速道路株式会社【NEXCO 中日本】、14 は国が主体である。

【委員】資料４の P65 「リニア中央新幹線」関係施策については、モノレールの延伸やバス路線強化など、もっと充実できるのではないかと。

【事務局】資料４の P63 の八 3・4・8 の整備など、他の項目に散らばっているものもあるので、関連施策として記載するなど、表現を工夫したい。

【委員長】JR 八王子駅北口に自動車アクセスできないことについて検討ができないかと。

【委員】北口のバスターミナルについては、これまでも様々な検討が行われてきた。タクシーはショットガン方式にするなど。ただしうまく進んでいない。まずは北口の整備が必要である。

【委員】北口には、1 台乗用車が止められるスペースがあるが、通常はチェーンで囲っており、警察に許可を得ないと利用できない状況になっている。

【事務局】資料４の P80 に北口整備に関する施策を取りまとめている。

【委員】【事前提出資料を事務局より説明】①JR 八王子駅経由京王八王子駅行きのバスは、ほとんど JR 八王子で利用者が降車してしまい空車で八王子駅に向かう。②JR 八王子駅と京王八王子駅の東放射線道路はバス回送のための道路なので調査していただきたい。③三井住友海上より保健所までを歩行者道路にしたらどうか。④京王八王子駅より五又路が一方通行なので対面に変更すれば違法駐車もなくなるのではないかと。⑤JR 八王子駅発着のバスを京王八王子駅発着に変更し、東放射線を 1 日も早く歩行者道路にしたい。⑥京王駅前のタクシー及びバスのための再開発の検討をすべき。⑦JR 八王子駅と京王八王子駅間の歩行者は、乗換がほとんどである。

【委員】【上記に対する意見】JR 八王子と京王八王子間のバス路線を廃止し、歩行者専用道路にするという意見については、疑問である。バス事業者は駅からの交通手段を確保するのが使命であり、その区間を運行しないのは市民へのサービス低下に繋がる。

【委員】【補足説明】JR 八王子と京王八王子間のバスにも利用者がおり、空車ではないことから、同区間のバス路線は維持すべき。

【委員長】交通上で問題になっている箇所を市民から指摘してもらえるような仕組みを作ることはできないかと。

【委員】【上記に対する意見】同様の提案を「道路探検隊」といった名称で、以前したことがあるが、それを取りまとめる市側の負担が大きいため実現できなかった。

3 計画管理について

【1】PDCAについて

【委員】資料4のP95に示されている平成35～36年に一回だけ評価検証を行うのであれば、PDCAのサイクルにならないのではないのか。

【事務局】モニタリングは95の施策進捗状況、目標の達成状況について毎年行う。表現方法が誤解を招くため工夫したい。

【委員】PDCAのサイクルがどういう視点で見直すのかなど明確でない。絶対値としての水準まで行けばいいのか、変化率としてのどの程度上昇すればいいのかなど、それらを議論する場はあるのか。

【事務局】第6回協議会では、パブリックコメントの結果と修正対応方法の確認を中心に議論をする予定である。今回の議論を踏まえて、事務局において内容を修正するので、各委員に資料を送付し、意見をいただくなどの対応としたい。

【委員長】今回は、通常3年程度かけて行う交通マスタープランの検討を2年に縮めて行っている。そのため、個別施策を中心に議論しており、数値を積み上げて目標値を設定しているものではないと認識している。

【委員】一般企業であれば、定量的な目標値を設定した場合、達成できなかった時の責任問題となる。行政にその覚悟があるのか。

【委員長】目標設定については、近年ようやく行政計画の中にも盛り込まれるようになった状況である。市の前向きな姿勢と受け取っていただきたい。

【2】モニタリング指標について

【委員】モニタリング指標の満足度については、対象者は誰になるのか。詳しく記載すべき。

【委員】都市部と過疎部では、便利さも異なっており、結果が異なってくる。別々に指標設定できないか。

【事務局】出典は、八王子市市政世論調査である。対象者は全市で3,000人である。出典を明確にするようにする。例えば、目標⑧⑨は、対象が中心市街地のため、中央地区のみのデータを抜き出している。必要に応じて、地域別のデータを確認するなどの対応を行う。

【委員長】目標を二つ設定することもあり得るので、データを整理しておいてほしい。ただし、中央地区だけ高い目標で、その他が低い目標を立てるわけにはいかないため、地区によって目標設定するのは、厳しいものと認識している。

【委員】 モニタリング指標については、アウトカム指標が多いように思われるが、インプット、アウトプット、アウトカムといった指標の分類があるなか、アウトカム指標が多いように感じる。アウトプット指標は、施策の直接的な影響であるのか評価がしにくいという欠点があり、アウトプットにより事業の進捗をしっかりとチェックするというのが近年のトレンドである。もう少し議論が必要ではないか。

【委員長】 これまで、その施策で何を整備したのかというアウトプットを中心に評価を行ってきた。しかし近年は、それによって市民生活がどのようになったのか、というアウトカムを評価する、という流れになってきたものと認識している。またアウトプット指標で考えると、自らの事業だけを進めればよい、というセクショナリズムに陥ってしまう可能性もある。